

28Q-am171

薬学部1年生の読書意識

○大塚 勝弘¹(¹東京薬大薬)

【目的】大学生の読書離れが話題になっているが、活字に触れて欲しいという願いから、授業を担当しているのを利用し、授業に関係する本を読ませ、感想文を提出させている。今回、学生の読書離れを改善し、勉学の向上に役立てたいという思いから、学生の読書意識について調査したので報告する。【方法】読書感想文を提出させた後に、学生に対して読書意識について記名方式でアンケートを実施（約450名）し、その結果を集計、分析する。アンケートの内容は、本の選択の基準、読んだ本のジャンル、読み終わるのに要した時間、本文以外の目次、まえがき、あとがき等も読んだかどうか、一ヶ月当たりの読書数、大学図書館の本の利用度など。【結果・考察】本の選択の基準は、半数以上の学生が、最初に目に付くタイトルではなく内容によって選択していた。ほぼ半数の学生は1日で読みきっている。しかも、その大半は6時間以内で読みきっている。本文はもちろんのこと、半数以上の学生は目次、まえがき、あとがきまで読んでいたことがわかった。半数強の学生は月平均1~2冊の本を読んでいることがわかった。月平均10冊以上本を読んでいる学生が男子で3.5%、女子で0.5%いることもわかった。数字の上ではたくさん本を読む学生のほうが短い時間で本を読み終えている学生が多い。しかし、ほとんど本を読まない学生の中にも短い時間で本を読み終えている学生がおり、けっして読めないとか、読むのが遅い、あるいは読む時間が無いということではないようである。読書後の感想では、多くの学生が読書の良さを再認識した。今後アンケート結果を踏まえ、学生の読書意欲をよりいっそう引き立てる方法を考えていきたい。